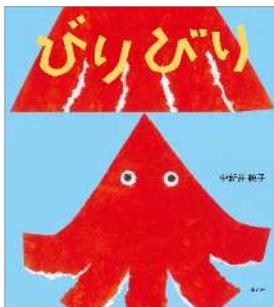




乳幼児向け

びりびり



中新井純子／作
童心社

びりびりびり…。さあ、紙を破ってみよう！どこから破ってみようか？上から？下から？それとも、まあるか？破り方によって色々なものが出来上がるよ！びーり、びーり、びりりりり…。おや？今度は何ができるんだらう。想像力がふくらむ一冊です。

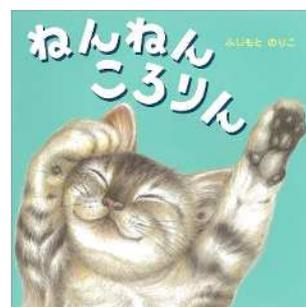
もしかして…



クリス・ホートン／作
木坂涼／訳
BL出版

おるすばん中の子ザルたち。マンゴの木は、トラがいっぱいて危ないから近づいちゃいけないと言われていま。でも子ザルたちは「もしかして…」「みるだけなら…」と出かけてしまいました。食いしん坊な子ザルたちは、どうなってしまうのでしょうか？

ねんねん ころりん



ふじもとのりこ／作
世界文化社

まあるくねんねのねこちゃん。くるんとねんねのわんちゃん。すやすやねんねの赤ちゃん。み～んな気持ちよくねんね。丁寧に描かれた絵から、動物の毛並みや赤ちゃんのぬくもりが伝わってきます。幸せそうに眠る姿に、笑顔になれる一冊です。

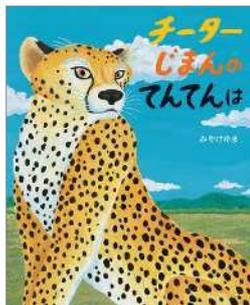
おじさんのぼうしはどこいった？

ジョアン・L・ノドセット／ぶん フリッツ・シーベル／え やすだふゆこ／やく 出版ワークス



強い風が吹いて、おじさんのお気に入りの帽子が飛んでいってしまいました。帽子を飛ばされてしまったおじさんは、リスやネズミなどに帽子の行方を尋ねます。でも、なかなか帽子はみつかりません。おじさんの帽子は、どこへいってしまったのでしょうか。

チーターじまんのてんてんは



みやけゆま／作
BL出版

「ハークション！」冷たい風にかかれて、大きくしゃみをしたチーター。そのとたん、体のもようである黒いてんてんが、とびだしていってしまいました。どこにとんでいったかという、それはね…。自慢の黒いてんてんを追いかけて、チーターは走ります！

初めに読んだときは真顔で集中して聞いていましたが、2回目からは動物たちがくしゃみをするたび大笑い！くしゃみのシーンでは、息子も一緒に「ハークション！」と読んでいます。リズムと語感が良く、大迫力のイラストで、親も一緒に楽しめる絵本です。

さいたま市在住
4歳児母親





小学校 1・2年生向け

しゅくだいがっしょう



福田岩緒／作・絵
PHP研究所

うた歌っているふりをしていたら、ともだちのゆりちゃんに気づかれてしまい…。ともだちや先生のはげましを受けながらにがて苦手なことに向き合い、歌うことのたのしさに、気づいていくものがあり。

きょうりゅうレディ

じよせいこせいぶつがくしゃ
さいしょうの女性古生物学者
メアリー・アニング



リンダ・スキ
アース／作
マルタ・アル
パレス・ミゲ
ンス／絵
まえざわあき
え／訳
出版ワークス

メアリー・アニングはくびながりゅうよくりゅうなど、19世紀のイギリスでかつやくこせいぶつがくしゃさべつへんけんした古生物学者。差別や偏見にもまげず、興味のあることにまっしぐらなメアリーの伝記絵本。

ちきゅうのための
1じかん

ナネット・ヘファーソン／さく パオ・ルー／え
おがわひとみ／やく 評論社



ねん1年に1回、春分に近い土曜日の夜8じ30ふんから1じかん、世界中のひとびと人々が、ちきゅうをおもって明かりを消す「アースアワー」を紹介する一冊。かくとし各都市のようすの絵も、とても魅力的。

はじめての
日本のれきしえほん



溝ロイタル／作
山本博文／監修
パイ インターナシ
ョナル

にほん日本のれきしを、ていねいなイラストをちゆうしんを中心にえがいた絵本。かん字にふりよながなもついでいて、低学年からでも読むことができ、むかしの日本を知り、きょうみも興味を持つきっかけになるような一冊。

だんだん だんだん



たけがみたえ／
作・絵
ひさかたチャイ
ルド

ゆうがたさんぽで夕方散歩に出かけると、そらはだんだんよるいろ夜の色になり、だんだんだんだん暗くなる。リズムよくよすす読む進めることができ、ほんがえががれている自然やおじいさんの表情にほっこりできる一冊。

「だんだん だんだん」がたくさん出てきておもしろかったです。田んぼから出てきたかえるの顔がかわいかったです。ぼくのすきな生き物が出てきて楽しかったです。花や木の色がとってもきれいでした。おじいちゃんが見せたかったものがわかったとき、びっくりしました。ぼくもいっしょに見に行きたいです。

深谷市立明戸小学校
2年生





小学校3・4年生向け

シェフでいこうぜ!



上條さなえ/作
磯崎圭主/絵
国土社

だいとさいたまけんしゅっしん はは しょうがく ねん
大斗は埼玉県出身の母をもつ小学4年
せい おとこ げんき
生の男の子。コロナのせいで元気がな
い父ちゃんをはげまそうと、大斗は
「てびち作り」にチャレンジ。父ちゃん
のふるさと沖縄の、おふくろの味と
知ったからだ。だが…

ものがたり
ピアトリス・ポターの物語
キノコの研究からピーターラビットの世界へ



リンゼイ・H・
メトカーフ/文
ジュニ・ウー
/絵
長友恵子/訳
西村書店

しぜん い もの だいす
自然と生き物が大好きなピアトリス・
ポターは、本物どおり正確に描こうと
どうぶつ ほね
動物の骨までスケッチ。やがてキノコに
夢中になり、研究を重ねて論文を発表。
ピーターラビットの絵本作家ポターの
けんきゅうしゃ いちめん えが てんきえほん
研究者としての一面を描く伝記絵本。

ねが じどう
願いがかなう自動はんばいき
ひっしょう
ジャンケン必勝てぶくろ



山ろたオ/作
たけいよしかず/絵
童心社

「ジャンケンに勝ちたい!」「動物の
言葉が分かりたい!」など、子供たち
の願いを叶えてくれるグッズが盛り
だくさんのロケット型自動はんばいき。
どんな使い方をしていくか、楽しみ
ながら読み進められる一冊。

ぼくんちのねこの
はなし



いとうみく/作
祖敷大輔/絵
くもん出版

ねこ
猫の「ことら」は16歳。最近(さいさいきん)はベッド
の上(うへ)で丸(まる)くなって眠(ねむ)るばかり。歳(とし)を
とって動(うご)けなくなっていくおじいちゃ
ん猫(ねこ)「ことら」とその飼(か)い主(ぬし)の家族(かぞく)
の物語(ものがたり)。動物(どうぶつ)の命(いのち)の重(おも)さを考(かん)えさせられ
る一冊(いっさつ)。

へいほう せかい
二平方メートルの世界で



前田海音/文
はたこうしろう/絵
小学館

びょういん おお やく メートル
病院(びょういん)のベッド(おお)の大き(おほ)さは、たて約(やく)2m、
はば約(やく)1m。そのまわりをぐるりと囲(かこ)う
カーテン(なかにゅういんちゆう)の中(なか)が入院中(にゅういんちゆう)のわたし(わたし)の世界(せかい)の
すべて(すべて)。入院中(にゅういんちゆう)の海音(みおん)がベッド(ベッド)の上(うへ)
で発見(はっけん)したのは…子ども(こども)ノンフィクション
文学賞(ぶんがくしょう)大賞(たいしょう) 受賞作(じゆうじょうさく) を元(もと)にした絵本(えほん)。

わたしは、この本を読んで
なんだか心がぼかぼかしま
した。わたしも前に入院し
たことがあって、入院とは
つらいものだと思っていま
したが、このお話を読んで
入院はつらいことばかりで
はないという気づきが生ま
れたからです。
もし、また入院をしても、
大じょうぶだと思(おも)うことが
できました。

吉川市立北谷小学校
3年生





小学校5・6年生向け

東京タワーに住む少年



山口理／作
ふすい／絵
国土社

東京タワーに虹をかけるという壮大な夢を実現させるために独自で研究を続ける、科学が大好きな小学6年生の健人。仲間と一緒に研究を行うことに価値を見出した健人は、この夢を実現させることができるのだろうか。

サマークエスト



北山千尋／作
しらこ／装画・挿絵
フレーベル館

海で父親を亡くしたヒロキは父親のことをほとんど知らない。ずっと誰にも聞けなかった父の死の真相を確かめるために、ひと夏の冒険の旅にでる。ヒロキと一緒に旅をしながら、ヒロキや周りの大人たちの繊細な気持ちを感じ取ってほしい。

りぼんちゃん



村上雅郁／作
早川世詩男／装画・挿絵
フレーベル館

家族や友達から子供扱いされていた朱理が、家庭の問題で苦しんでいる友達を救いたい一心で勇気を振り絞る行動に出る成長物語。自分の周りにも、実は苦しんでいる人がいるかもしれない…。周りの人の小さな心の動きにも気づいてあげたくなる物語。

空から見える、 あの子の心



シェリー・ピアソル／作
久保陽子／訳
平澤朋子／絵
童心社

いつもひとりぼっちで不思議な行動ばかりするジョーイには、実は素敵な秘密がある。だれかがだれかと真剣に向き合う時、そこには素晴らしい物語が生まれる。何事も、知らないことに人は敬遠しがちだが、深く知れば世界が広がる。

縄文の狼



今井恭子／作
岩本ゼロゴ／画
堤隆／監修
くもん出版

少年キセキと狼オオアシ、そして狼犬ツナグが強い絆でたくさんの困難と一緒に乗り越えていく。自分も縄文時代にタイムスリップして、一緒に冒険を楽しみながらハラハラドキドキ…。「キセキは無事か?! どうなってしまったのだ?!」

これは縄文時代を舞台にした少年キセキと狼オオアシの、強い絆をえがいた物語です。狼が自分の家族のようにキセキを育てたことと、キセキと一緒に育ったオオアシが、苦楽を共にするうちにキセキと強い絆で結ばれたことに感動しました。約1万年前のことだけれど、遠い昔でも現在と同じように家族・仲間を大切に思い、日々を懸命に生きていることに共感しました。

所沢市立小手指小学校
6年生





中学生向け

あしたの幸福



いとうみく／作
松倉香子／絵
理論社

父と二人暮らしだった雨音。父が交通事故で死んでしまい、独り身となった雨音を選んだのは、幼い頃に家を出た産みの母と一緒に住むことだった。「利用」「生きる術」とわりきり、母と過ごす、そこに紡がれる二人の関係が生み出す“ほんとうの幸福”とは何か。

青いつばさ



シェフ・アールツ／作
長山さき／訳
徳間書店

ジョシュは兄のヤードランといつも一緒。ヤードランは、大きいけれど子供みたいで、怒ってパクハツすることもある。ある日、拾ったツルの子に飛ぶ練習をさせるうち、ヤードランがジョシュに大ケガをさせてしまった。引き離されることになった二人は…。心に響く兄弟の絆の物語。

赤い糸でむすばれた姉妹



キャロル・アントワ
ネット・ピーコック
／作
日当陽子／訳
野田あい／絵
フレーベル館

中国の養護施設で姉妹のように過ごしていたウェンとシューリン。ウェンがアメリカに養女に行き、離ればなれになってしまう。ウェンは、シューリンを引き取ってくれる家族をアメリカで見つけようとするが…。中国の伝説「運命の人とつながる赤い糸」にのせて紡がれる物語。

「ハーフ」って なんだろう？



下地ローレンス吉考／著
平凡社

初対面でいきなり「なにじん?」と聞かれたり、ずっと日本に住んでいるのに「日本語上手ですね」と言われたり。複数のルーツを持つ「ハーフ」や「ミックス」と呼ばれる人々の経験をもとに、イメージや思い込みから偏見や差別を生む社会の問題を考える。

そらのことばが 降ってくる



高柳克弘／作
あやのあゆ／絵
ポプラ社

顔のホクロをからかわれたことから、保健室登校をする中学2年生のソラ。ある日、自分しか登校しないはずの保健室で、俳句が趣味のハセオに出会う。初めは俳句に抵抗のあったソラもその魅力にはまっていく。言葉で傷ついたソラを救ったのもまた言葉だった。

言葉で傷ついた経験をもつ中学2年生のソラ、ハセオ、ユミ。直接相手に言いたいことを伝えるのが苦手な3人が、俳句を通して次第に自分の気持ちを表していくようになります。私はこの物語を読んで、どんな言葉でも使い方次第で人を輝かせたり、傷つける刃物になったりするということを改めて感じました。言葉の素晴らしさや大切さを教えてくれる一冊です。

越谷市立東中学校
2年生



令和 4年度 埼玉県推奨図書



高校生・青年向け

世界でいちばん 幸せな男



エディ・ジェイク／著
金原瑞人／訳
河出書房新社

アウシュヴィッツ生存者のエディ・ジェイク氏が「新しい友へ」と読者に向けて語るノンフィクション。人間としてのモラルと幸せへの希望を失わなかったエディの過酷な体験が綴られる。非人道的行為を絶対に許してはならないと実感する、今こそ読みたい一冊。

ペイント



イ・ヒョン／著
小山内園子／翻訳
イースト・プレス

事情により子供を育てられない親の代わりに国が子供を育てる近未来。そこでは、面接「ペイント（ペアレントインタビュー）」により子供が親を選ぶ。施設の退所年齢が近づく17歳の少年ジェヌは家族について悩み、考える。「家族」について考えずにはいられない作品。

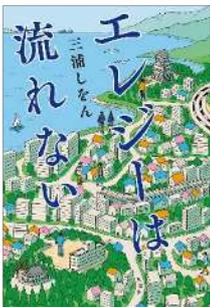
空にピース



藤岡陽子／著
幻冬舎

公立小学校の教師になって5年目のひかり。問題の多い小学校に赴任し6年生の担任となるが、日本語が話せない、授業中に教室を出ていくなど多種多様な子供たちの姿に衝撃を受ける。過酷な環境に負けずに生きる子供たちに寄り添い、困難に向き合おうとするひかり。子供たちにひかりの想いは届くのか。

エレジーは流れない



三浦しをん／著
双葉社

土産物屋の息子・怜は高校2年生。さびれた温泉街で、将来の夢もなく漫然と暮らしていた。自由奔放な友人たちの日常、幼い頃から行き来する2つの家。迫りくる進路選択に、少しずつ自分の思いを口にする。悩み、迷い、されど明るくたくましい青春群像小説。

やさしい猫



中島京子／著
中央公論新社

スリランカ出身の自動車整備士クマさんとシングルマザーのミュキさんは震災ボランティア活動で出会った。娘のマヤと3人、家族としての未来を描き始めた3人の前に思わぬ壁が立ち上がる。家族3人で暮らす、当たり前だと思っていた幸せを取り戻すためにどれだけの力がかかるのか。

「家族」ってなんだろう？この本はそんな普通が問われる話でした。頻出する会話文から感じ取れる人間関係が面白く、巧みな技術も相まって一気に読み進められました。会話文が多いのでテンポも良く、多くの若者が共感できるそんな一冊だと思います。

さいたま市立大宮北高校
1年生

